

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士後期課程
授業名	器官病態外科学特別研究			
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室	
科目区分	特別科目	配当年次	1 ～ 3 年次	
必修・選択の別	選択	単位	1 0 単位	
対象学生	－	使用言語	日本語	
キーワード	(脳神経外科学) 脳腫瘍、脳卒中 (整形外科) 運動器疾患、神経生理学、生体力学 (脊椎脊髄病学) 脊椎脊髄手術 (Spine and spinal cord surgery), 低侵襲脊椎外科手術 (minimally invasive spine surgery), 骨粗鬆症性椎体骨折 (osteoporotic vertebral fracture) (視覚病態眼科学) 眼組織創傷治癒 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 聴覚、平衡覚、嗅覚・味覚、嚥下機能、頭頸部腫瘍、感染症			
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(脳神経外科学) 准教授 北山真理、講師 八子理恵、講師 中井康雄 (整形外科) 准教授 岩崎 博、准教授 筒井俊二、准教授 高見正成、講師 長田圭司、講師 西山大介、講師 福井大輔 (脊椎脊髄病学) 教授 中川幸洋 (視覚病態眼科学) <u>教授 雑賀司珠也</u> 、教授 岡田由香、准教授 住岡孝吉、准教授 小門正英、准教授 田中才一、准教授 白井久美、准教授 岩西宏樹、講師 石川伸之、講師 安田慎吾 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 教授 保富宗城、准教授 玉川俊次、准教授 河野正充		
	薬			
授業の概要	脳神経外科学、整形外科、脊椎脊髄病学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。			
到達目標	(脳神経外科学) 脳神経外科学の主要分野である脳腫瘍や脳卒中における研究計画の立案方法を修得する。計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行することができる。 (整形外科) 神経生理学的、生体力学的研究の手法について修得する。 (脊椎脊髄病学) 高齢者の脊椎脊髄病疾患の治療の実態について（特に骨粗鬆症性椎体骨折について）、その現状の治療の把握と問題点の整理、必要となる介入の種類とその方法の開発について検討することができる。 (視覚病態眼科学) 計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行し、英文論文を発表する。 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 上気道における感染免疫・感覚免疫・腫瘍免疫に関する高度な研究能力を身につける。			

授業計画	(脳神経外科学) 脳腫瘍または脳血管障害の病態解明や治療法に関する研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行できるように指導を行う。 (北山真理／八子理恵／中井康雄) (整形外科) 運動器疾患に関する神経生理学的・生体力学的解析を行い、運動器疾患の病態解明、治療法の開発に関する研究を行う。 ・神経生理学的、生体力学的の課題設定、計画の立案 ・生体力学的研究の手法 ・神経生理学的研究の手法 (岩崎 博／筒井俊二／高見正成／長田圭司／西山大介／福井大輔) (脊椎脊髄病学) 脊椎脊髄疾患に関する治療の変遷及び低侵襲治療の開発と評価、現在開発中の低侵襲治療に関する評価と改良について研究、論文作成の指導を行う。(中川幸洋) (視覚病態眼科学) 博士論文作成の指導を行う。研究課題の設定・研究計画の立案とともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。眼組織の生体反応に関して、日々の臨床活動や地域の保健医療での課題等の解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献することの重要性を説く。(雑賀司珠也／岡田由香／住岡孝吉／小門正英／田中オー／白井久美／岩西宏樹／石川伸之／安田慎吾) (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 1. 病原微生物の保菌・感染・伝播における宿主細菌相互作用についての研究指導及び論文作成指導を行う。(河野正充) 2. 嗅覚障害の再生における感覚免疫機序についての研究指導及び論文作成指導を行う。(保富宗城) 3. 扁桃病巣感染症における細菌叢と単一細胞解析についての研究指導及び論文作成指導を行う。(保富宗城) 4. 頭頸部癌・甲状腺癌における癌幹細胞の同定と解析についての研究指導及び論文作成指導を行う。(玉川俊次) (保富宗城／玉川俊次／河野正充)
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%（研究課題の設定内容、研究の遂行状況）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	(脳神経外科学) 特に指定しない。 (整形外科) 特に指定しない。 (脊椎脊髄病学) 【教科書】「標準整形外科学 第14版」 著者：井樋栄二 出版社：医学書院 (視覚病態眼科学) 特に指定しない。 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配付する。 【参考書】英文誌「Infection and Immunity」 出版社：ASM Press 「がんの生物学原書」 著者：Robert A.Weinberg 出版社：南江堂